

皆さんは「施食会」という法要をご存じでしょうか？

「施す」という字に「食べる」と書いて「施食」といいます。お菓子や果物、野菜、乾物などの多くの供物をお供えし、多くのお坊さんで行う法要です。

この「施食会」は、諸説ありますが禅宗では鎌倉時代に中国から日本に伝わったとされています。文字通り、法要を行う事によって食べ物を施し供養する儀式であり、主にお盆の時期に行われます。

では誰に向かって食べ物を施すのでしょうか？

「施食会」は一般的には「施餓鬼会」や「お施餓鬼」と呼ばれています。「餓鬼」と呼ばれる、苦しんでいる飢えた存在に食べ物を施し供養をされるとされています。

こういった話を聞くと、私達の御先祖様が「餓鬼」になって苦しんでいると思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、決してその様なことは有りません。御先祖様は仏様となって私達の事を見守って下さるはずなのです。

では、なぜ「施食会」という法要が御先祖様の供養として行われるようになったのでしょうか？

仏教では、まず自分よりも先に困っている人を助け、善い行いをする事を、功德を積むといえます。そしてその功德を積むことによって、より充実した信仰生活を送ることが出来るのです。

「餓鬼」と呼ばれる、飢えているであろう存在に向けて思いを寄せて、苦しみを離れて下さいと願いを込めて法要を行う事によって、とても大切な功德が積めるのです。そしてその功德は法要を行う私達だけでなく、御先祖様にも廻らす事が出来るとされています。自分だけでなく御先祖様にも功德を積んで頂くのです。

自分さえ良ければいい・・・。また、自分の事で精一杯という方も多いのではないのでしょうか？

私達は多くのつながりのなかで生きています、そのつながり、「縁」によって自分がここに存在しているのではないのでしょうか？

自分自身でその「縁」に気づき、多くの「縁」に感謝出来る生活を送りたいもので

す。それには自分以外の多くの存在に思いを寄せる事が大切なのです。

法要を行うことで、自分中心に生活していた私達が、困っているであろう多くの存在を助け、供養によって善い行いを実践し功德を積み、そしてその功德は、私達だけでなく御先祖様にも積んで頂く事が出来ると言われています。

「<sup>せじきえ</sup>施食会」とは、とても丁寧な、大切な法要なのです。